

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792200018		
法人名	社会福祉法人祥永会		
事業所名	グループホームよみたんふくぎの里		
所在地	沖縄県中頭郡読谷村字喜名2272番地2		
自己評価作成日	平成21年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4792200018&amp;SCD=320">http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4792200018&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成21年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設する小規模多機能居宅介護事業所の利用者と日頃から交流を図っています。また地域のミニデイサービスにも参加させていただき、地域交流も行っており、地域に開かれた事業所づくりを目指しております。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護事業所と併設された閑静な集落の中にあり、広い敷地内の芝庭から、地域の方が気軽に入ってこれるような地域に根付いた事業所である。年2回の防災訓練や定期的な運営推進会議の開催、季節ごとの行事、情報の共有等が、併設する小規模多機能の事業所と連携で行われている。また、母体法人との運動でISO9001規格に適合したサービスの品質向上に取り組み、密な連携を基に地域密着型サービスとしての役割を担っている。管理者はじめ職員共に認知症高齢者の日々のケア向上に取り組む姿勢が伺える。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日頃職員が目にするような場所、ホーム玄関、食堂に掲示しており、いつでも職員が周知できるようにしている。その他会議の場においても理念にもとづいているか、確認するようにこれからも理念を中心にケアを提供してまいります。	当事業所の理念は母体法人の理念が掲げられており、わかりやすい言葉で表現されている。職員の日々のケアの中にも見守りの姿勢等が見られ、理念の実践の取り組みが伺える。	法人全体の理念をふまえつつ、関係者間で地域密着型サービス事業所としての独自の理念をつくり上げ、全員で共有し、その理念を日々のケアや事業所運営に反映する取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域へ広報誌を発行してグループホームの活動内容を報告しております。地域の公民館で開催される、ミニデイサービスへ入居者を参加させていただき交流に努めております。	庭先でミニ豚を飼っているため、近所の方や保育園の子どもたちが敷地内に気軽に来訪している。また、地域の青年会が事業所でエイサーを披露したり、利用者が区のミニデイに参加し交流を図っている。区長より、公民館での演舞鑑賞の誘いを受け、見学に行ったりしている。	認知症高齢者や事業所の理解を得ていくためにも、専門的知識を活かした認知症について勉強会や講演会等を定期的に開催するなど取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	読谷村地域包括支援センター主催の認知症講演会にて、地域で支える認知症介護についてパネリストとして参加させていただき、認知症介護についてグループホームでの活動内容、地域住民の認知症に対する理解が必要である事を伝えました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、区長、老人会長、村内有識者、村担当課係長に参加依頼し、2か月に1回実施して入居者の暮らしぶり、日々の活動を報告しております。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。会議では、日常の活動報告以外に、参加者からは事業所の利用料金や認知症高齢者への対応に関する事など意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度介護相談員を招いて、気づきや問題点の改善の共有を図り事でケアの向上に繋がっており、よりよい関係が保たれております。また確認事項がある際は、村担当課へ伺い確認しております。	市町村の担当者は運営推進会議には毎回欠かさず参加してもらい、地域密着型サービスや行政の役割について理解してもらっている。また、現状報告や空き状況報告、介護保険について適宜意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠はせず、安全に配慮し自由に外出できるように行っています。帰宅要求がある入居者に対しては外出支援を行い気分転換を図ったり、家族の面会を依頼し、状況に応じて対応し束縛しない生活を支援しております。	職員は、身体拘束の具体的な行為を理解し、日々のケアの実践に取り組んでいる。また、言葉による抑制にも気をつけ、外に出ようとする利用者には一緒に付き添って家まで出向いたりする等、利用者が満足する対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、地域包括支援センター主催の研修会へ参加し研修参加後、職員間で共有を図っている。また入浴介護の際は、身体チェックを確認しドラックロック・スピーチロック(薬や言葉による拘束)にも日々指摘しながら虐待防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の活用には至っていないが、外部研修で参加して学ぶ機会を持ち、職員間で共有したが全職員の周知には至らず、必要な説明ができるよう資料を置いて必要時の備えをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、納得していただいた上での入居となっております。家族には十分な説明を行っているが、本人への説明は理解力や精神的負担を考慮し、家族にゆだねております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の希望には可能な限り応え、ご家族が面会にいらした際は、積極的に話しかけ得た情報や伝言は連絡ノートに記録し、職員間で共有する体制が出来ている。	交流を深めるためホームパーティーを開き、5家族9名の参加があった。またアンケート調査をしたり、面会時に家族に気軽に話しかけたりして、入浴を週3回にしてほしい、水分補給を多めにしてほしい等、率直な意見を聞き対応している。	面会時に家族からの意見等を聞く取り組みは行われている。今後家族会の結成を促進して、利用者や家族の全体的意見・要望を事業所運営に反映する取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、管理者と共にミーティングを行い、職員に意見を求める機会を設けておりケアの反映に繋げており、総合的によりよい環境作りができております。また月1回職員ミーティングを行い、会議録を代表者へ報告しております。	事業所の職員間では毎日朝と昼の申し送り時に意見交換がされ、管理者は職員の意見を率直に聞き、代表者へ報告されている。母体法人からは、地域密着型サービスの運営に関しアドバイスを受け、常に利用者の目線で日々のケアの実践に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、母体法人施設長が定期的に現場にこられ、介護職員へ困ったことはないか、直接確認する。また年に2回の人事考課を行っており、職員が向上心を持って働けるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップへの取り組みを法人全体で支援し、内外の研修機会を与え参加者は会議で研修内容を報告し職員間で共有を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ加入して連絡会主催の研修会への参加を行い、情報交換を通じ交流を図りながら、お互いの質の向上に努めている。今後は他グループホームへ入居者と共に訪問する機会を作り積極的な交流を図りたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人または、ご家族に入居に対しての不安やニーズは出来るだけ時間をかけて、お話を聞く時間を設けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みを受けた際は、実態調査にて本人と会い心身の状況を確認しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込み後直ちに入居していただくのではなく、現在在宅にて生活を送れているのであれば、継続できるよう支援しております。(入居にあたり判定会議を開催し入居の必要性を判断しております。)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に寄り添いながら野菜の皮むきや洗濯物たたみ等の家事を無理のない程度に協力していただき、見守る環境づくりをし、共に生活するなかで、人生の先輩として尊重していく関係づくりに取り組んでおります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で本人と家族の絆を大切にしながら支援し、誕生会や特別な行事に参加してもらい、ご家族と共有を図り意見を取り入れ、協力を得ながらより良いケアに繋がっており、お互いに信頼関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が築いてこられた馴染みの関係を大切にし茶菓子や飲み物を提供し心地よい環境を作っております。また入居者から友達に会いたいと要望があれば、お宅や事業所等を訪問し途切れのない関係を支援しております。	事業所から比較的自宅に近い利用者はたまに帰宅している。また、親戚や友達が面会に来られたり、こちらからも会いに行ったりし、これまでの関係の継続を支援している。定期的には馴染みの美容室に行く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの合性を把握し、気の合う方同士で話していただける環境づくりを行うようにしている。また折り合いの合わない方同士の支援として茶菓子を配ってもらい、その場限りだが和やかな雰囲気になるよう一瞬一瞬を大切にしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、他事業所に面会に伺ったり、ご家族へ電話をしたり継続した関わりを保っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの意向を把握するよう努めており、意思の疎通が困難な方に対しては日々の本人の発した言葉や、行動の中から思いを引き出したり、家族の情報や意向も取り入れ可能な限り思いに寄り添うよう努めております。	入居時に本人や家族から希望を聞き取っている。また、日々のケアの中で本人の意向を汲み取り、申し送り時に職員間で共有している。思いを伝えにくい利用者の場合も表情から意思を確認し、本人の思いに沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今後のケアに活かす為と説明し、了解をえたうえで本人、家族から聞き取りを行い情報を収集し把握に努めております。これまでの暮らしを崩すことなく、入居者にあわせたケアを提供しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務形態から1日4回途切れの無い申し送りをを行い、心身状態の把握に努めている。また細かな反応を記録に残し、職員間で伝達を行いケアの反映に繋げております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らす為に、職員、ご家族とケアの在り方について連携を図り、3ヶ月事にモニタリング6か月ごとにケアプランの作成を行っております。	サービス担当者会議、プランの変更、モニタリングについて一人ひとりの予定表を作成している。サービス担当者会議には家族に参加してもらっているが、参加できなかった家族に対しては、密に連絡をとり情報提供をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細に記録するように指導しており、情報の共有化をした上で、ケアの入るようしております。特に周知が必要な情報は、別紙連絡ノートで確認する事と決めており、状態把握には時間をかけて取りくみケアの反映に繋げております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の同行や、買い物等の外出希望には状況に応じて柔軟な対応が出来ております。帰宅願望のある方は、職員と共に自宅へ出向いたり家族と電話のやり取りをしていただいております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出して散髪が行えない入居者は、地域の有償散髪ボランティアへ出張散髪を行っていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族に応じそれぞれのかかりつけ医で受診を行っております。また定期的に往診していただき、ホームとかかりつけ医との良好な関係が構築でき、本人やご家族の安心に繋がっております。	すべての利用者が入居前の馴染みのかかりつけ医の往診や外来受診を受けている。かかりつけ医との連携は密に行われており、定期受診の際には前もってFAXにて情報提供等がなされている。急変時の場合でもすぐ対応する等、事業所、主治医、家族間で高い信頼関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があれば併設されている小規模多機能居宅介護事業所の看護師と連携し、状態の報告や相談、対応・対処法を訪ねたり、指導してもらう事で良い環境が築かれております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	それぞれの入居者が入院の必要性が発生する事を予測しながら、日々、かかりつけ医との連携に努めております。入院の際は、入院先の病院とケア方法をはじめ、ご本人情報を共有しながら、かかりつけ医とも連携を図り、早期退院に向け取り組んでおります		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が終末期を迎えているとかかりつけ医より報告を受け、ご家族、かかりつけ医、職員にて事業所にてできる事を確認し、ご家族より理解、かかりつけ医より強力体制をいただき、現在実践しております。	職員間で、急変時の対応についてマニュアルの勉強会をしたり、日々の申し送りにて情報を共有している。現在、かかりつけ医との密な話し合いの中で、緊急時の対応などを確保しながら、終末期の見守りを行っている利用者がある。	重度化や終末期について事業所としてどこまで対応できるのか等、利用者や家族の希望などを踏まえて検討し、早期に重度化や終末期についての方針を作成し、関係者全員で共有しながら支援する体制づくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し事業所内に掲示しております。併設する小規模居宅介護事業所看護師へ連絡を行う体制を設けている。また新職員にて救急救命講習会へ参加し、緊急時に不安なく対応できるよう訓練を行っております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施し、消防署の指導や助言をもとに訓練を実施しております。消防署の助言により避難通路にスロープを設置したり、法人内で緊急時の連絡網があり、災害時には自動的に通報できるシステムを確立しております。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認等、年2回の防災訓練を行っている。また、法人内災害対策マニュアルが細かく整備されている。各居室にはスプリンクラーが設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を尊重し、言葉使いには十分配慮しております。また方言について講師を招いた勉強会に参加したり、職員間で間違った言葉使いがある場合は指摘するなどの策を講じております。プライバシーも細心の注意を払うようにしております。	一人ひとりを尊重し、言葉使いに関しては職員間で気がついた時にその場で注意し互いに意識を持って接している。また、申し送り等での利用者に関する事についても、プライバシーに配慮して行っている。個人情報に関する記録については、戸棚に保管するなど十分に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをお伺いするようにし、思いを表現させない方には、思いや希望を出せるように働きかけ自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は個々のペースを大切にし、その方がどう暮らしたいか、何を必要としているか理解するように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容室へご家族と外出される入居者の方もおります。また月に1度美容ボランティアを招き入居者のメイクや、マッサージを行っていただき、入居者へ喜ばれております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度入居者の方に食べたい食事を選択していただき、職員と共に買い物から料理の仕込みを手伝っていただき、食の楽しみを提供しております。	事業所内にて調理が行われており、支度の音や匂いにより、食への楽しみが感じられる環境となっている。また、週1回は利用者へ献立を決めてもらい、買い物や下ごしらえをしてもらっている。利用者や職員と一緒に食事を楽しみ、利用者も後片付けや皿洗い等行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士の作成した献立を基に、栄養バランスのよい食事を提供しております。毎食の食事摂取量、必要な方には水分飲用量を記録し確認しております。また一人ひとりに合わせた食事形態や食べやすい用具を使用し食事支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施方法や実施場所等は個々の身体状態に合わせて毎食後に実施しております。口腔ケアに理解の無い入居者は、時間をずらしたり、声かけの工夫を行い実施しております。また夜間は用具の洗浄、消毒を行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用者はおらず、各自の排泄パターンを理解し、自立に向けた支援を行っております。排泄で失敗してもご本人の自尊心を損なわないような声かけや、介護用品を使用して安心して排泄が行えるように実践しております。	オムツを使用している入居者はおらず、排泄チェック表にて各自の排泄パターンを把握し、その都度誘導している。夜間は、自主的な睡眠前の排泄や利用者からの希望で居室へポータブルを設置したり等の対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分飲用量の把握、体を動かす機会を出来るだけ多くもつように努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、入居者の希望に応じての入浴支援が可能です。最低週2回入浴支援を行い、入浴を拒む方には入浴したいと思う環境や声かけを工夫しながら対応しております。	基本的に週2回の入浴支援を行っているが、あくまでも利用者の意向に沿って入浴を実施している。家族の希望で週3回へ変更した利用者もいる。民謡を聞いてもらって落ち着いた状態で入ってもらったり、脱衣の仕方、洗い方の工夫、本人の希望する時間の把握等さまざまな方法で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の場所で過ぎる時間を妨げることなく、自由な場所で入眠していただき状況に応じて対応しております。なかなか寝付かれない入居者は、職員が添い寝をして対応する事もあります。週に1度はシーツ交換を行い、天気の良い日は、自身の布団を天日干ししております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服説明書をケース毎に整理し、職員が内容を確認できるようにしております。服薬時は本人へ手渡し、きちんと服薬出来ている事を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の心身の状態で、出来る能力に違いがあり、出来る力を引き出すように個々の生活歴を活かし、日々の暮らしの中で、少しでも喜びややりがいをもたらすようこれからも支援しております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態から外出を希望される方は限られておりますが、毎日気分転換で外出される入居者もあり、出来るだけ希望に沿うよう努めております。普段行けないような行楽地や季節の行事はご家族を交え協力を得ながら取り組んでまいります。	新聞等を見ながら、その都度利用者個々の希望を聞き、外出支援を行っている。また、花壇がある広い庭にて水やりや日向ぼっこをしたりと、日常的に外気に触れている。季節を感じる為に、その時期の外出を計画し、4月には浜下りに行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの入居者に金銭管理能力の違いがある為、個々の家族と相談した上で管理方法を選択しております。自身で管理される方や、必要の際にご家族に持ってきていただく等、ご家族に理解していただいた上で支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の制限はなく、電話は番号を押してあげたり、難聴の場合は職員が替わる等の取り次ぎをするよう必要な場面に応じて支援できるよう実施しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンからの煮物の匂いや炒め物の音など五感を刺激され生活感にあふれております。	共用スペースは広くソファ等が設置され、利用者が自由にくつろげる場となっている。カレンダーや時計なども見やすい位置に設置しており、利用者へ配慮がなされている。台所からは匂いや音等刺激にあふれ、生活感のある環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の希望に合わせた模様替えをしたり、環境の変化後は、入居者の観察を行い反応を記録しております。リビングや居室でゆったりしていただける環境作りに取り組んでおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使いなれた家具や好みの物を持ち込む事を依頼しているが、完璧とは言えず、小物や、家族の写真、布団等が持ち込まれ活用されております。	居室は、利用者や家族の意向に沿って本人が居心地よく過ごせるように、テーブルセット、趣味のビーズ、寝具、植木等それぞれの馴染みの物が持ち込まれている。これまでの生活の延長として馴染みのものは何でも持ち込んでもらうよう家族へ働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状態に合わせた安全な環境作りに日々取り組んでおります。今後も個々の身体状態の変化に合わせて自立した生活が送れるよう支援してまいります。		